



連載 [41] 水環境館のゆかいな仲間たち(水環境館の生き物図鑑)

## 「オオヨシノボリ」

キヨ~コちゃん

ヨシノボリの仲間でも屈指の大型種で10cm近い個体はまさに大(おお)ヨシノボリの名に相応しい迫力とカッコ良さ。ヨシノボリはその吸盤状の腹鰓で岩にへばりつくお家芸で知られるがその中でも急流部を好んで暮らすオオヨシノボリの吸盤は一級品。掌に乗せてみるとほかのヨシノボリの仲間と比べても明らかにピタッと吸いつく感じが良く伝わってくる。この強力な吸盤のおかげで人間が川底に足を踏ん張り、体を支えていないと流されてしまいそうな場所でも涼しい顔して岩にへばりついていられる。おまけに水が流れさえいれば垂直の滝や4~5mもの高さの砂防堰でも余裕で乗り越えて行く遡上能力も備わっており、お家芸はもはや名人芸の域に達している。

現在展示水槽にいる個体は実は別の川で採集してきたもので紫川産ではない。紫川にはヨシノボリの仲間が5種類確認されているが、このオオヨシノボリの数が一番少なく、滅多に出会えないものである。私が紫川で最初で最後に目撃したのも今から10年以上前のこと。中流域のとある場所に両岸から突き出た岩盤によって川幅が狭まり、急流となって勢いよく水が流れ落ちる小さな滝壺がある。そこへウェットスーツを着て腹這いになりながら潜水していた時だった。滝壺の底にある大岩の上に強烈なオーラを放ちながら急流



に鰓を靡かせ併むその男前な姿に目が釘付けになった。すかさず網で採集したのは11cmもある立派な♂だった。紫川にもいふとは聞いてはいたが、探してもなかなか出会えずにいたため突然の出会いにとても興奮したのを覚えている。しかし気になったのは見つけたのは成魚ばかり2、3匹。小さな幼魚の姿は一匹も見る事がなかった。「もしかしたら上手く繁殖できていないのでは」と気になって翌年も同じ場所に行ってみたが、その時は1匹も見つけられなかった。それから現在に至るまで紫川でのオオヨシノボリの生息情報は聞かない。果たしてあの場所にまだ彼らはいてくれているだろうか。それとも彼らにとって紫川はあまり居心地の良い川ではなくてきているのだろうか。今も目に焼き付いているあの男前な勇姿をいつかまた水中でお目にかかりたいものである。

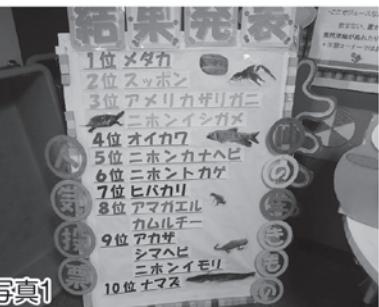


## スタッフの 飼育日誌

### “水環境館総選挙2017の行方”

ここ数年夏休みの期間中は館内に展示している生き物たちの中から一種類お気に入りを選んでいただく「生き物人気投票」を行なっています。毎回たくさん投票をいただき誠にありがとうございます!さあ気になる今年の投票結果ですがそれがこちら(写真1)です。う~ん、やはり傾向としてTOP10に入る生き物はカメの仲間やアメリカザリガニ、メダカといったメジャーな生き物だったり、見た目のインパクトが大きく目立つ生き物たちがほとんど。昨年(写真2)と比べてもあまり変わり映えしない結果となりました。私的にヒバカリが順位を上げ、圏外だったニホントカゲがランクインしたのは満足でしたが、こっそり自分で投票したギンブナが3票しかなかったのは悲しかったです。(しかも3票とも自分で投票したもの)目立たないマイナーな生き物たちやよく知っている身近な生き物でもその知られざる一面にスポットライトを当て多くの方により関心を持っていただきたいと日々展示を頑張っている者としてはこの結果には何とも複雑な心境なのです。

来年は今年圏外だった生き物たちの中から一種類でも多くランクインできるようにしようとします。そのためには展示する側が如何にしてその生き物たちの魅力を引き出し伝えられるかその努力と工夫に掛かっています。決してスタッフが某アイドルグループの総選挙のように一番の推しメン(イチオシのメンバーの意味)に一人で何票も大量に投票するような事はありません!(今年は3票入れましたが……)我々スタッフの「展示」という地道な選挙活動、もとい普及活動によってまさかの下剋上を起こせるのか!?波乱が予想される来年の水環境館総選挙をどうぞお楽しみに!

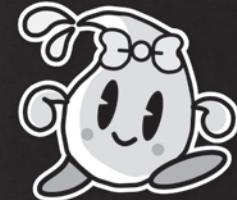


# 水環境館たより 第69号

発行 | 平成29年10月6日

## 第51回 生き物講座『夜の昆虫観察会』を開催しました!

8月19日(土)八幡東区河内の山間部で夜の昆虫観察を行ないました。一般的に昆虫採集といえば日中に虫捕り網と虫力ゴを持って出掛けるというイメージですが、今回は「ライトトラップ」と呼ばれる夜間に光に向かって集まる虫の性質を利用した採集方法を行ないました。観察会に集まった“飛んで火にいる夏の虫”ならぬ夏のちびっこたちは皆いすれ劣らぬ大の昆虫好き。初めて経験するライトトラップによる昆虫採集は日中とは一味違い、暗闇の中でワクワクドキドキも手伝って皆さん大興奮の様子でした。



集まった昆虫を我先に手掴みしては大事そうに見つめ嬉しがるちびっこたちの姿に、国産の身近な昆虫たちでも今人気の外国産のカブトムシやクワガタに決して劣らない魅力があることを改めて認識しました。近年は都市化が進んだ影響で山林や雑木林が減り一昔前のように身近にいる昆虫たちと接する機会も少なくなっています。幼少の頃に体験する虫捕りという遊びは大人になって考えてみると身近な自然との貴重な接点だったような気もします。今回の講座が昆虫採集の楽しさとそこから見える身近な自然の大切さを知ることが出来た貴重な体験としていつまでも忘れずにいてもらえると幸いです。